

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 国際園芸アカデミー運営費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 国際園芸アカデミー 管理調整係 電話番号：0574-60-5250

E-mail：c24413@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 45,794 千円 (前年度予算額：47,858 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	47,858	0	0	8,425	2,499	2,000	40	0	34,894
要求額	45,794	0	0	7,916	2,290	2,000	38	0	33,550
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・教育目標である「花と緑に関する高度な知識と技術を持ち、産業を現場で支える担い手として活躍する実務者の育成」を達成するため、実践的な学習を重視した岐阜県独自のカリキュラムにより、専門分野の教育と併せて関連分野を横断的・総合的に学習し、産業界の期待に応える人材の育成に努めている。
- ・職業園芸人として第一線で活躍できる人材の育成を図るため、人材育成に欠かせない知識や技術を学生に教授する教員研修の充実・強化に努める必要がある。
- ・学生募集活動の強化、進路就職指導の強化を図る必要がある。

(2) 事業内容

- ・日本で初めて花と緑の分野に特化した県立の専修学校である、国際園芸アカデミーを運営する。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・花と緑の産業界の発展に寄与する人材を育成する県立専修学校の運営に要する経費であるため県において全額負担することが妥当である。

(4) 類似事業の有無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	8,514	・会計年度任用職員に係る人件費
報償費	3,988	・非常勤講師等に係る報償費
旅費	2,751	・教員研修、高校訪問旅費等
需用費	12,118	・管理運営に必要な経費、施設の緊急修繕に要する経費
役務費	1,648	・電話、インターネット利用料
委託料	9,884	・施設維持管理、マイクロバス運転業務等委託に必要な経費
備品購入費	583	・芝刈り機等
その他	6,308	・学内ネットワーク機器等の賃貸借等
合計	45,794	

決定額の考え方

財政課で記載します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・清流の国ぎふ花き振興計画

第2章 推進施策の4「花きの安定供給」

国際園芸アカデミーでは、「花き生産」「花き装飾」「造園緑化」の各分野で「職業園芸人」となる人材を育成。

(2) 国の状況

- ・花き産業及び花きの文化の振興を図り、花き産業の健全な発展及び心豊かな国民生活の実現に寄与することを目的に「花きの振興に関する法律」が成立。
(平成26年6月)

事業評価調査（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
花と緑の産業界で活躍できる人材、担い手を育成する学校として、実践を重視したカリキュラムで技能を十分に身に付けた人材を育成していく。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
				<small>（前々年度末時点）</small>		
入学者数 （マイスター科）	26人 （H16）	26人 （H30）	20人 （H31）	20人 （R2）	20人 （R3）	% 100.0
	（H ）	（H ）	（H ）	（H ）	（H ）	%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）
学生募集活動の強化
優秀な学生を確保するため、農業系高校との連携強化、リニューアルされたホームページによる情報発信、学校説明会の充実を図った。
新型コロナウイルスの影響で6月までの学校見学会等は中止になったが、7月以降は予定通り実施。7月26～27日（オープンキャンパス）、9月12～14日（学校見学会）11月1日（オープンキャンパス）、3月13～15日（学校見学会）。

（前年度の成果）

・令和2年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果
ホームページを見て資料請求する例が増えつつあり、入学希望者の増加につながっている。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価) ○	学生募集が入学者の増加、優秀な学生の確保、ひいては花と緑の産業界で活躍できる人材育成につながるため、事業の必要性は高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	オープンキャンパスに複数回参加する人や、入学希望者が昨年を上回るなど、幅広く学生募集活動を展開した効果が出ている。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価) △	学校の運営方法の改善や情報の発信に努めており、引き続き学校関係者評価を参考としながら事業の効率化に努める。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 花と緑に関する高度な知識と技術を持ち、産業界を現場で支える担い手として活躍する実務者の育成を推進するため、人材育成に欠かせない知識や技術を学生に教授する教員研修の充実・強化に努めるとともに、学生募集活動の強化、進路就職指導の強化を図る必要がある。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 花と緑の産業界の本学に対するニーズは高く、継続的に事業に取り組んでいく必要がある。
--